

# 郡山市の道路管理について

～スマートフォンアプリを活用した「ココナビこおりやま」による道路の維持管理～

郡山市 建設交通部 道路維持課

## 1. はじめに

郡山市は、福島県の中央に位置し、東北地方で仙台市、いわき市に次いで第3位の人口規模を有する、東北の拠点都市です。(333,108人 H30.4.1現在)

首都圏から東北新幹線で約80分というアクセスの良さに加え、鉄道や東北自動車道・磐越自動車道が交差し、交通の利便性が良いことから「陸の港」とも称され、「人」「モノ」「情報」が集まる中核市、そして経済県都として成長を続けています。



JR郡山駅西口周辺

## 2. 道路管理状況について

本市が管理する道路は、8,969路線、実延長3,274km(H30.4.1)となっています。

### 【市道延長・路線数・管理構造物(H30.4.1)】

道路種別	路線数	実延長(m)	舗装延長(m)	舗装率(%)	橋梁	トンネル	横断歩道橋
1級市道	68	260,616.6	259,556.2	99.6	99	1	3
2級市道	101	236,731.5	223,605.9	94.5	107		
その他市道	8,800	2,777,406.2	2,190,526.6	78.9	600		
合計	8,969	3,274,754.3	2,673,688.7	81.6	806	1	3

本市の道路及び道路施設の管理方針については、事後保全型維持管理から予防保全型維持管理に転換し、施設の長寿命化を図り、維持管理・更新費用を縮減するために、「郡山市公共施設等総合管理計画」や「郡山市道路施設修繕計画」、「郡山市橋梁長寿命化修繕計画」を策定したところであり、地域特性等を踏まえ、維持管理上の優先度を明確化した上で、維持管理・更新費用の平準化とサービス水準が維持できるよう、計画的な修繕を実施しています。

また、日常の点検や補修等の維持管理については、市民や町内会からの情報提供をはじめ、「郡山市道路パトロール実施要領」を策定し、この要領に基づき週2回職員による道路パトロールを実施しているほか、市と災害協定を締結している事業者や団体からの道路の不具合等の通報により、発見した道路の破損個所の補修作業を行っています。

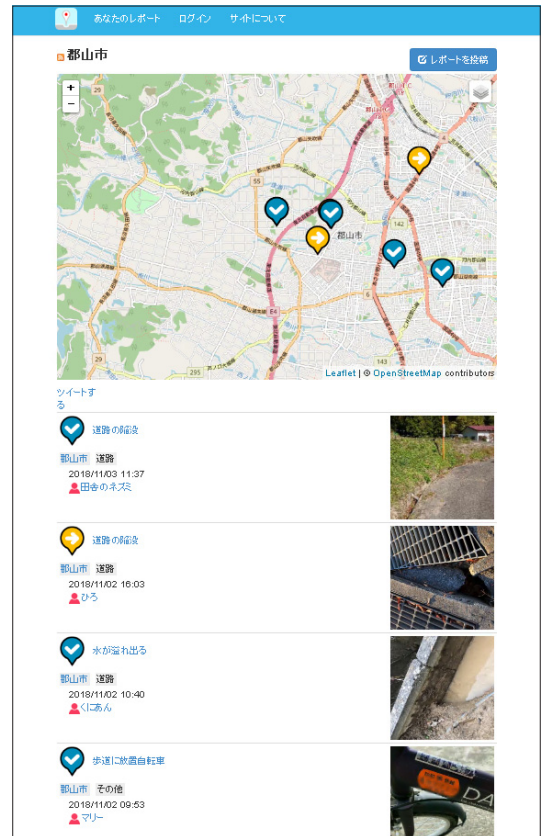
### 3. 市民との協働による維持管理

本市では、市民と行政が共に取り組む市民協働型の維持管理を推進しており、住民や企業がボランティア活動で行う身近な道路の清掃や美化活動等を支援する「アイラブロード事業」の展開や、平成28年1月からは、道路の破損や防犯灯の故障などを、市民がスマートフォンやタブレット端末などで撮影・投稿し、市役所に情報を寄せていただくシステムとして、専用アプリケーション「Fix My Street Japan」を活用した「ココナビこおりやま」を運用しています。

これまでは、道路の破損などについて電話やFAX等で市民から情報を寄せていただいて対応していくなかで、位置や現場の状況などが不明瞭なケースがありましたが、「ココナビこおりやま」は、位置情報や画像が添付されて情報が寄せられてくる情報投稿システムであるため、地図情報や写真により損傷状況等が把握でき、事前に対応人員や補修材の手配等を効率的に行えるなど、迅速な現場対応に役立っています。

実際に、市で受付した投稿全体のうち、防犯灯の設置要望など地域での話し合いを要するもの以外の約85%が解決済となっており、そのうち3日以内に解決したものが約40%、即日対応が15%となっており、スピーディな対応につながっています。

また、市役所の開庁時間外でも投稿・閲覧が可能となっており、市民と行政の両者が時間や場所を問わずウェブサイト上で投稿内容や対応状況が確認できる仕組みとなっています。



「ココナビこおりやま」ウェブサイト画面



解決前写真（市民による投稿）

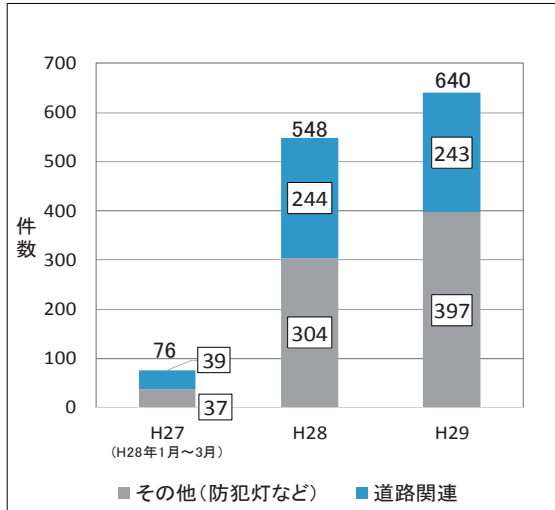


解決済写真（担当課が対応・更新）

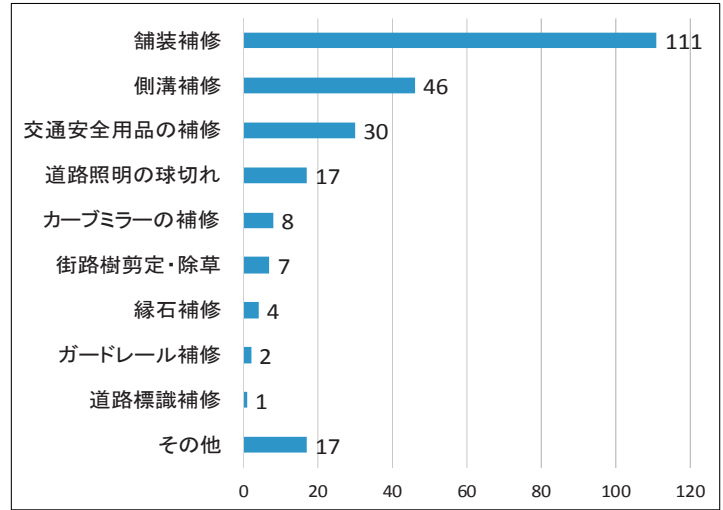
「ココナビこおりやま」への投稿事例

「ココナビこおりやま」の投稿件数は年々増加傾向で、投稿全体の約4割が道路関連の投稿となっており、内訳としては舗装や側溝の補修の割合が高くなっています。

舗装や側溝の破損など緊急性の高いものについては、投稿確認後、即日対応を心掛けており、このような日常の維持管理が損傷の拡大や大きな事故を未然に防ぎ、道路の安全確保や長寿命化につながるものと考えております。



「ココナビこおりやま」投稿件数



道路関連の投稿内容 (平成 29 年度)

## 4. おわりに

道路の維持管理を限られた予算の中で効率的かつ効果的に行っていくためには、点検・診断・措置といったメンテナンスサイクルにおける市民との協働やICTの活用を図りながら、これまでの事後保全だけでなく予防保全の管理も取り入れた維持管理が重要となることから、今後は、道路の特性に応じた予防保全を重視した維持管理を行い、道路の安全性・機能性を確保し、市民生活環境の向上を目指します。